

平成28年9月15日

## 【平成28年度第2回（24回）セミナーのご案内】

テーマ 今一度社会科の地図を考える！ 伝わる触地図 拡がる世界

日時 平成28年11月19（土） 13:00～16:00

場所 日本特殊陶業市民会館 第1会議室

住所 愛知県名古屋市中区金山1-5-1

TEL: 052-331-2141

JR・名鉄本線・地下鉄名城線「金山駅」より徒歩約5分

内 容：

さまざまな触図が製作され、それに触れる機会も増えてきています。しかし、どれだけ図の内容が多様化しているとはいえ、図の原点は「地図」ではないでしょうか。

地図記号、地図の向き、地形など幅広い情報が、2次元、もしくは2.5次元の地図中にさまざまな工夫をこらし表されています。ただ、墨字の地図に記載されていることを全て触地図に盛り込んでしまうと、かえって読みづらいものになってしまうこともしばしばです。また、触地図が読みづらかったことで、その後の触図の読み取りに苦手意識が生まれてしまうことも少なくありません。

本セミナーでは、私たちにとって身近な地図を、いったいどのように表現すれば視覚障害の児童・生徒に分かりやすく伝わるのか、また学習する上で地図を触読して理解するために必要なポイントは何なのかを学びます。

プログラム：

13:00～ 開会挨拶（本会理事長）

13:05～14:35 講演「地図学習指導のポイントと、それを生かす地図教材の作り方の事例」  
（日本福祉大学教授、元・特別支援学校用社会科教科書編集委員 柏倉秀克氏）

14:35～15:00 休憩

15:00～15:50 触地図に関する情報交換

15:50～16:00 閉会挨拶

16:00 終了

※会場後ろには、教科書の地図や、地図帳などを展示しますので、休憩時間などにご覧ください。

定 員 80名

参加費 会員・500円、非会員・1,000円

お申し込み・お問い合わせは、名古屋盲人情報文化センター・藤下（電話 052-654-4441）

[E-mail:m-naomi@nagoya-lighthouse.jp](mailto:m-naomi@nagoya-lighthouse.jp)

お申込みの際は、氏名、所属、連絡先、点字・墨字の使用の有無を、11月10日（木）までにご連絡ください。

## 【平成 28 年度第 1 回（23 回）セミナーのご報告】

テーマ 大学入試センター試験の点字化配慮と統一英語点字の段階的導入について

日時 平成 28 年 7 月 2 日（土）13:30～16:30

場所 日本点字図書館 3 階 多目的室

7 月 2 日（土）、日本点字図書館において今年度第 1 回（通産、第 24 回）のセミナーを開催し、80 名のかたにご参加いただきました。今回取り上げたテーマは「大学入試センター試験の点字化配慮と統一英語点字の段階的導入について」です。

冒頭、地域の高校で学ぶ視覚障害生徒への対応に関する全国の教育委員会へのアンケートについて、事務局より報告いたしました。

続いて、大学入試センター准教授・南谷和範氏から、1979 年からの共通一次試験に引き続き点字受験を実施している大学入試センター試験において、これまで蓄積されてきたノウハウを元に工夫されている点字のレイアウトなどについてお話いただきました。それによると、誤解を招かない表現や検索性の確保など、点字使用者ゆえの不利が生じないようにしているとのことでした。

過去の試験問題の実物を見せていただきながら、具体的には次のようなことが紹介されました。

- ・大問毎に別閉じにする。
- ・A4 サイズ・片面で、1 ページに入る情報量を増やすと共に図表を作る際のスペースを確保。
- ・長文の後ろにある設問の紙は右上角を切っており、長文を飛ばして、設問から見る事ができる。（点字プリンタで打ち出す場合も、右側の紙を残すなどすれば、閲覧性を高められる）
- ・設問では、下線など注目箇所のページ数と行数を記している。長文の注目箇所の左に数符なしの下がり数字で行数を書き、裏点の線をはさみ、2 マス空けて本文を書いている。
- ・誤りを答えさせる場合は第 1 指示符で注意喚起（墨字はゴシックなど）
- ・正しい組み合わせを答えさせるものは表にし、グラフも表にしている。（グラフは触読能力を問われてしまうため）

このほか、点字受験者に対する配慮事項としてそろばんなどの持ち込みが可能であること、拡大文字については 14 ポイントのほか、22 ポイントでも受験可能であることなどについて紹介がありました。

次に、UEB（統一英語点字）の導入の経緯と概要、これからの流れについて、視覚特別支援学校中学部用英語点字教科書を出版されている東京点字出版所の職員であり、日本点字委員会委員でもある白井康晴氏から解説していただきました。

UEB は 2020 年に入学する人たちのセンター試験から導入されますが、それに向け、今年度は視覚特別支援学校の中学部、来年度からは高校教科書に学年進行で導入されます。

以下、UEB の概要に関し、特に着目すべき点を幾つかご紹介します。

UEB は点字⇔墨字の相互変換を簡単にする、墨字に対応する記号は点字でも 1 個、1 対 1 の関係を目指して作られた記号である。

今年度、中学 2 年の英語から大きく変わったのは括弧（丸括弧と角括弧）。複数形の s の付けたしが丸括弧、「i」を「you」に置き換えられるのが角括弧。

中学 3 年は略字が異なるので注意が必要。「ever」「here」が変わったのが悩ましい。サピエ図書館では、2008 年に一部改定されたアメリカ式英語のルールを採用してこなかったため、アンドマークやスラッシュなどが変わったイメージになった。

英検は来年度からUEBの導入を考えているとのこと。現状3級から略字を使っている。なお参考書籍として、海外のサイトのほか、以下の書籍が紹介され、それぞれの特徴についても紹介がありました。

東京点字出版所編『統一英語点字 (Unified English Braille) について』

福井哲也著『エッセンシャルガイド 統一英語点字 UEB で何が変わるか』

また、白井氏からは文科省著作中学教科書における英語点字縮訳の導入順序についても資料を提示いただきましたが、後日、以下の情報もいただきました。

特別支援学校(視覚障害) 中学部点字教科書の編集資料(平成 28 年 4 月)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1370868.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1370868.htm)

ここには、盲学校教科書独自の付録「資料編」の内容が掲載されており、そこに、2・3年の教科書各巻頭に載っている「縮約の解説」7回分もまとめて掲載されていますので、墨字で、生徒たちが学んでいる縮約の資料をご覧ください。（点字版では第1巻）

なお、本文の原典教科書は、東京書籍の“NEW HORIZON ENGLISH COURSE”です。

点字版の発行は東京点字出版所で、本文の各巻と資料編は個別に購入も可能かと思えます。

そして閉会のあいさつでは、長岡副理事長が「利用者の高齢化や点字離れが言われ、色々なメディアがある中で、点字の地位は少し低下しているかもしれないけれど、少なくとも学習場面での点字は不滅だと思います。今日の講演者・司会者のような若い方たちが点字を支えてくれるのですから、点字はなくなりません。皆さん安心してこれからもお力添えいただきたいと思います。」と締めくくられました。

最後になりましたが、ご協力いただきました講師の方、そして、ご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

※『視覚障害 No. 339』にも、このセミナーの記事が掲載されています。

## 【平成 28 年度第 1 回理事会記録】

日 時 7月2日(土) 12:00~13:00

場 所 日本点字図書館会議室

内 容 :

1. 平成 28 年度第 1 回セミナーの進行と役割分担の確認
2. 各都道府県、および政令指定都市教育委員会に実施した、視覚障害生徒が地域の高校に在学する、もしくは在学した場合の配慮についてのアンケートに対し、回答が集まってきている。
3. 点友会の石津さんから、教科書点訳に関わる機会が少なくなったことから、退会のお申し出があった。しかし、「教科書点訳の手引き」の製作へのご寄付など多大なご支援をいただいております、今後も引き続き、本会の案内・連絡等をお送りすることとなった。

## 【平成 28 年度第 2 回理事会記録】

日 時 8 月 4 日 (木) 13:30~14:30

場 所 日本点字図書館会議室

内 容 :

1. セミナーのご案内は上記に記す
2. 第 3 回の理事会について
3. その他

・今後のセミナーのテーマ候補として、図工・美術の教科書製作、音楽教育といった実技についても挙げられた。

・小学校中学年から英語が開始されるのに伴い、その教材の取り扱いを話し合うべきではないか。

・デジタル教科書についても引き続き議論していくべきだ。ピンディスプレイの開発とともに、マルチメディア教科書の中に点字を組み込み、点字データを活用できるようにはならないか。

発行日：平成 28 年 9 月 15 日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：(社福) 日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場 1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：[matsumotom@nittento.or.jp](mailto:matsumotom@nittento.or.jp)

振込口座番号：0180-7-262151